

I. 研究主題

「今までの制服・これからの制服」 ～女子夏服の見直しを通して～

II. 研究の概要

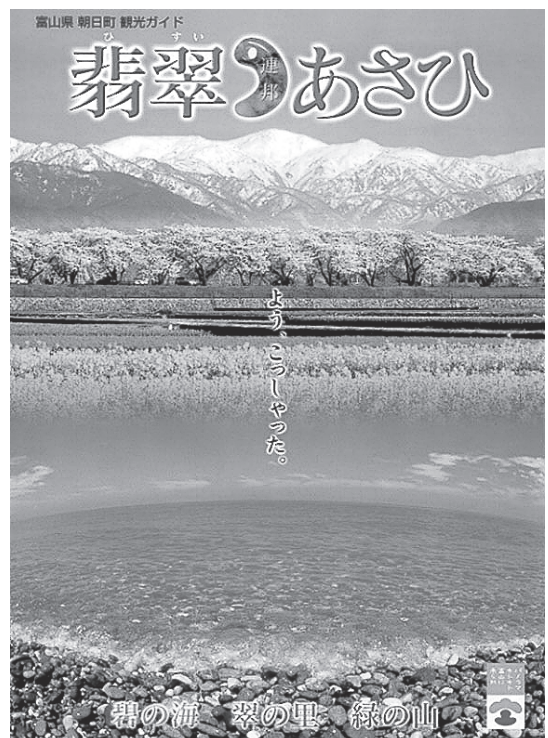
(1) 地域と学校の概要

朝日町は、富山県の東部、新潟県との県境に位置し、「日本の渚100選」に選ばれた「ヒスイ海岸」や朝日岳、白馬岳に代表される北アルプス連邦がそびえ、海拔0mから3,000mまでを有する魅力いっぱいの自然豊かな町です。里山暮らし体験として、「農業体験」「文化伝承体験」「伝統的な料理体験」などを先人の知恵を自然の中で学ぶことができます。町の人口は1954年の町村合併当時は24,000人を超えていましたが、現在は約11,000人となり減少傾向にあります。

朝日中学校は、昭和57年に泊中学校と小川中学校との統合により朝日中学校として開校しました。生徒数は220名、1学年3クラスと2年生、3年生2クラスからなり、学校教育目標である「豊かな人間性を目指して自ら努め、明日をひらくたくましい生徒を育成する」、目指す生徒像として「たゆみなく学ぶ生徒」「おもしろいのある生徒」「強い身体を鍛える生徒」を目標に子どもの育成に努めています。

また、今年度より朝日中学校は保小中一貫教育校となり、コミュニティスクール（学校運営協議会制度）が導入されました。県内一早く一人一台タブレット端末を配備し、ICT教育から更に教育DXへと進んでいます。

更に、子どもたちにとって望ましい持続可能な部活動と教員の働き方改革の両立を実現するため、朝日町型部活動コミュニティクラブも令和3年度から始まっています。



朝日中学校 校舎正面



朝日町型部活動コミュニティクラブの活動

(2) P T Aの概要

P T Aは、「学校と会員が一体となって学校教育の目的達成に協力するとともに、会員各自の教養の向上を図ること」、「すべての生徒が健康・安全・平和に、幸せな日々が送れるよう、保護者と教師が協力して学校教育・家庭教育を推進し、生徒の健全育成と教育の進展を図ること」を目的として活動を行っています。

(3) P T Aの組織と活動内容

P T Aの運営は、会長、副会長（1名）専門委員長（3名）、専門副委員長1名、会計、書記、運営委員（地区委員、町内委員）、総務委員、育成委員、広報委員により構成されています。

<主な活動内容>

- ・ 総務委員会
 - ア P T A講演会の開催
 - イ 年1回の親子清掃活動
- ・ 育成委員会
 - ア P T A講演会の開催
 - イ 通学路での交通立番
- ・ 広報委員会
 - ア P T Aアンケートの集計
 - イ 年2回の広報紙の発行



親子清掃活動

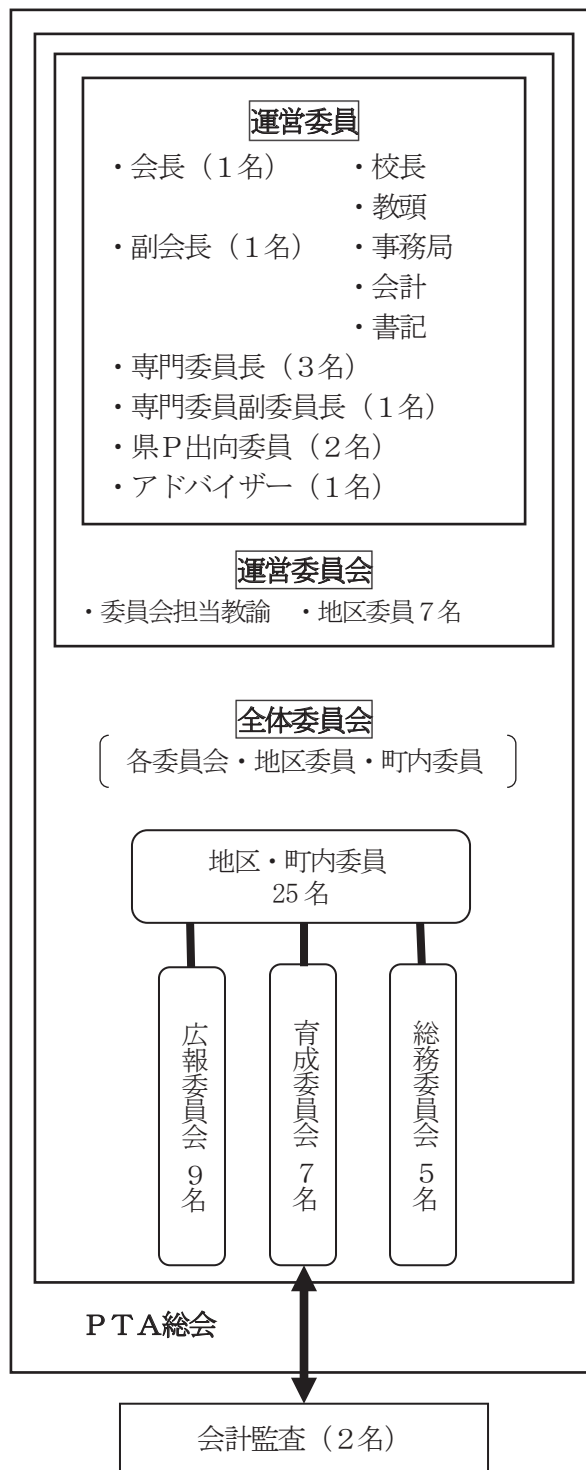


交通立番



さわやか運動

P T A組織図



Ⅲ. 研究主題の背景

ここ近年の全国的な傾向として、学校の制服の見直しが行われるようになってきており、富山県内でも特に高校において制服の見直しが行なわれています。ジェンダーレスに配慮したもの、デザイン性の重視、着心地や機能面の重視が新しい制服選びの基準になっているようです。

朝日中学校が昭和57年に泊中学校と小川中学校が統合した時の制服は、男子は学ランと夏場はカッターシャツ、女子はセーラー服と夏場はブラウスでした。それから40年の歳月が過ぎましたが、昭和、平成、令和の時代にも変化を遂げることなく現在も着用されています。これまで制服の見直しについての意見が出なかった訳ではないようですが、見直しまでの強い意見は出なかったため、現在に至っています。

平成31年1月からの新型コロナウイルス感染症により、学校行事の制限や校内での感染対策による制限が行われるようになりました。朝日中学校でも新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動の制限が行われており、今までの様な行事や活動ができないのが現状です。その一つとして、ランチルームでの全校給食は全員が一方向を向いての黙食となっています。その時に女子生徒の後ろ姿に目が留まりました。隣にいた先生に、「ブラウスが透けていますよね」と尋ねたところ、「そうなのですよ。気づいてはいたのですが…」との声が返ってきました。先生方との雑談の中で、男性教員にも話を聞いたところ、「女子生徒の夏服については気にはなっていました」とのことでした。そこで、後日開催したPTA運営委員会の親学び講座にて、「制服について思うこと」をテーマに話し合い、その時に意見が多く出た女子の夏服の見直しと女子生徒のストラックスの導入についての2点についてPTAが中心となって見直すことにしました。

令和4年度からの導入を目指してPTAと学校側との話し合いが行われた結果、まずは女子生徒のストラックスの導入を令和4年4月から行いました。



ランチルームでの給食



夏服ブラウスの後ろ姿

Ⅳ. 具体的実践研究の内容

(1) 女子夏服見直しの流れ ～検討委員会の立ち上げ～

- ① 令和4年度、女子夏服検討委員会を立ち上げ
委員会メンバーは、PTA運営役員（1年、3年生の保護者）2年生の保護者代表（2年生の運営役員がいないため）、教員（校長、教頭、生活指導主事、学年主任）
- ② アンケートの実施（PTA特別アンケートとして）
- ③ 検討委員会で業者との情報及び意見の交換、条件の絞り込みなど方向性の決定を行い4つの案に絞り込み
- ④ 4つの案を提示し、保護者による投票の実施（9月体育大会昼食時）



女子夏服検討委員会

- ⑤ 4つの案を提示し、生徒・教職員によるオンライン投票の実施
- ⑥ 投票結果を参考に検討委員会で新しい女子制服を決定
- ⑦ 正面玄関にて発表
- ⑧ 検討委員会の振り返り

(2) アンケートの実施と考察

「女子夏服の見直し」について、PTA特別アンケートを実施しました。アンケートの結果からブラウスの制服について、約9割の保護者が改善の余地があると回答しました。

【Q1：現在の制服の問題点はどこですか】

- ① デザインが昭和である
- ② 生地が薄く下着が透けてしまう
- ③ スカートの中にインするため動くとき裾が出てきてしまい、だらしなくなる
- ④ 下着の色が限定される

【Q2：変更にあたり重視したいことは何ですか】

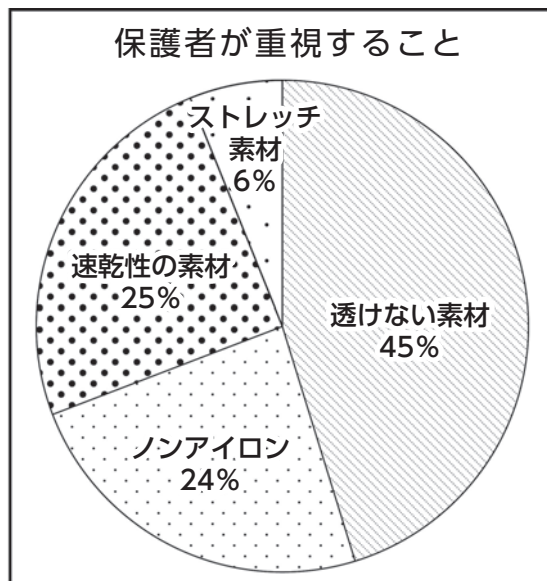
- ① 透けない素材
- ② ボディラインが出ない形
- ③ 速乾性のあるデザイン
- ④ かわいいデザイン
- ⑤ スラックスにもスカートにも合うデザイン

(3) 4つのモデルの選定

アンケート結果をもとに、要望の多かった生地の選定から始めることにしました。重要視したところは、今回見直しを行うきっかけとなった「透けない」を最優先とし、「ノンアイロンで速乾性があるもの」、「ストレッチ生地であるもの」としました。また、前開きはボタンではなくスッキリ見せるためファスナーとすることにしました。そこから襟の大きさや色を検討し、最終的に4つのモデル案に絞り込みました。

(4) 生徒・保護者・教職員投票

まず、夏休み後半のPTA親子清掃活動時に保護者投票を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により急遽中止となりました。そこで9月3日の体育大会昼食時に保護者投票を実施しました。投票場所がグラウンドから遠かったこともあり、保護者の投票率は42%でした。その後9月15日には生徒と教職員がオンラインでの投票を行いました。(投票率とともに90%)



〈4つのモデル案〉



保護者投票

(5) 3年生の後輩への思い

後輩のために責任を持って選んでほしいとのPTAの思いで、新しい制服を着ることのできない3年生女子希望者に4つのモデル案の試着をしてもらい撮影を行いました。

実際の4つのモデル案の制服を1週間正面玄関に展示しました。また、制服を着用した感じを分かりやすくするために、3年生が試着した写真の展示も同時に行いました。



3年生による試着



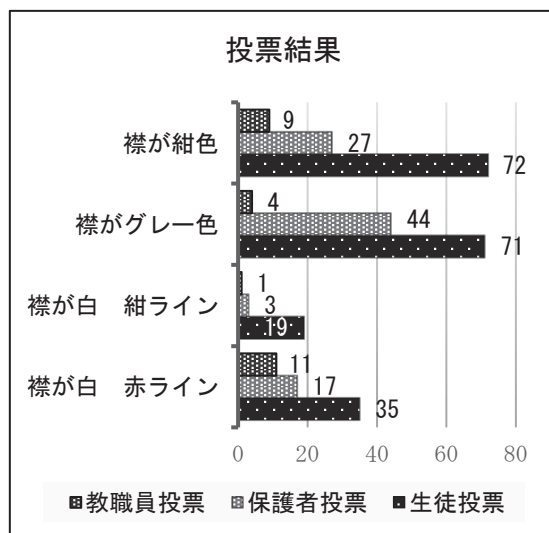
3年生による4つのモデル案試着

(6) 新しい女子夏服の選定

投票結果は、生徒、保護者、教職員で支持するモデル案が異なりました。

- ・ 生徒は、襟が紺色
- ・ 保護者は、襟がグレー色
- ・ 教職員は、襟が白色に赤ライン

投票結果を参考に検討委員会で新しい女子夏服の選定に入りました。話し合いの結果、やはり生徒の意見や選択に挙げた理由などの思いを最優先するべきだとの意見が多く出たことから、生徒がより多く投票した「襟が紺色」案に決定しました。

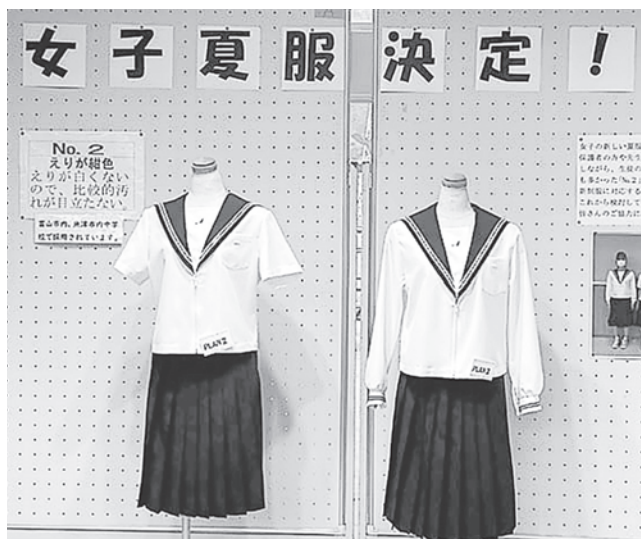


(7) 新しい制服の発表

10月5日に生徒の登校に合わせて、決定した制服を正面玄関にて展示を行い発表しました。

朝の慌ただしい時間のためか、立ち止まって見ていく生徒は少なかったのですが、放課後は生徒が足を止めて新しく決まった女子夏服を触りながら「来年着るのが楽しみだね」や「これに決まったんだ…」など盛り上がっていました。

惜しくも僅差で採用にならなかった「襟がグレー色」の制服は、男子から支持されており「残念だったな」との悔やまれる声も聞かれました。



正面玄関にて発表

(8) 検討委員会の振り返り

今回の制服の見直しに携わることを軽い気持ちで考えていましたが、活動を進めていく上で意外と難しいことだと感じました。子どもたちの意見や思っていることは、親とは違っており、思いは様々だと実感しました。一例として、制服はマネキンに着せての展示だったのですが、「子どもたちに着てもらえばイメージが違ったと思うので、そのような工夫も必要だったのではないか」などの意見もありました。

この意見を受け、発表後、決定した制服を子どもたちに試着してもらったところ、私たちが考えていなかった貴重な意見がありました。袖の部分の締め付け具合や腕を動かしたときに感じる圧迫感、掃除を行う時の肩回りや背中の違和感や着丈の心配など、機動性や着心地などに関する的確な指摘もありました。子どもたちから指摘を受けた箇所については、現在、業者と話し合いを行い、改善しながら理想の制服に仕上げるための最終作業を行なっているところです。

このようなことから、「子どもたちも検討委員会に加えたほうがよかったのではないか」との意見もありました。また、子どもたちも一緒になって決めていくことで、愛着を持ち、長く愛されることも考えられます。この先、制服の見直しなどをする際には、今回の意見や反省点を参考にして、より良い検討委員会が設置されることを願っています。

V. 実践の評価と残された問題点

40年間変わっていなかった女子の制服を改定するにあたり、まずPTA会則にある特別委員会を「女子夏服検討委員会」として設けました。この委員会にはPTA役員だけでなく、校長先生をはじめ先生方にも入っていただくことで、保護者側や学校側からの要望や思いを話し合うことや、制服業者にも入っていただくことで、価格、デザイン、生地、性能などの細かなところまで検討することができました。

また、PTA特別アンケートを行なったことで、保護者と生徒の意見を聞くことができ、皆さんが思っている制服に絞り込んでいく上で参考になりました。今回は学校の制服を全て変えるのではなく、女子の夏服（ブラウス）だけに限定された改定であったので、PTAの主導で行いましたが、子どもたちが投票した意見を最優先することは重視しました。投票結果は、保護者、教職員、子どもではそれぞれの思いから異なる結果となりましたが、最終的には子どもの意見を尊重して新しい女子の夏服を決めることができ、良かったと思っています。

課題としては、アンケートの中で、「女子だけ?」「男子も変えてほしい」との意見もありました。今後は、男女分けず自由に選択できるような「ジェンダーレス」に配慮した制服や、子どもたちにも自由な意見、尊重ができる議論の場を持つことが必要であると感じました。



業者からの細かな説明

VI. まとめ

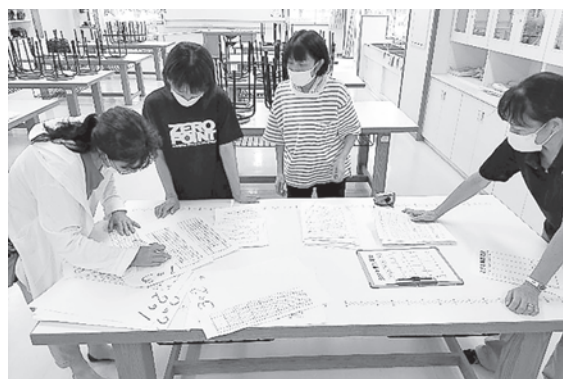
今回の女子制服の見直しは、コロナ禍での気づきがスタートでした。子どもたちが学校生活でも多くの制限を受けて思い切り活動ができず、マイナスに考えたり行動する中で、この気づきからPTAで何とかしたいと危機感を持ってプラスに取り組んだりしたことが、この「女子夏服の見直し」です。昨今は人権意識の高まりや多様性の尊重を背景に、県内の高校で制服や校則を見直す動きが広がっています。しかし、中学校においては身体が著しく成長する時期でもあり、ジェンダーレスの制服はまだ普及していません。

今回は、制服が保護者の経済的負担で成り立っていることから、PTAが中心となって検討委員会を立ち上げました。40年間変わっていなかった女子夏服について、PTAだけでなく、子どもたちにも投票してもらい、生徒や保護者、教職員の意見を集めて最終的に検討委員会で新しいものを決めました。

今回の活動を通して、子どもたちが気持ちよく集団生活を送るため、中学生としての制服の重要性をPTA全体で共有することができました。そして、子どもたちを含めみんなで考え、意見を出し合って1つの新しい形を示せたことは、PTAとして大変有意義だったと思います。

今後、この制服が、どのような役割を果たしていくのか。その必要性についても議論する日がくるかもしれません。また、将来的に、中学生もジェンダーレス制服へ向かうかもしれません。いや、向かう必要があるのかもしれません。何より、子どもたちが笑顔でこの制服を着てのびのびと学校生活を送ってくれることを願っています。

自分たちが着る制服を自分たちが決める。先生方や保護者が主導ではなく、子どもたちの意見を尊重し単なる制服の変更ではなく、一人一人が自分の意見を出し、それを認め合うことができる人間として成長していくことにも繋がるのではないかと考えています。



投票の集計作業



決定した制服を見る生徒